

メンテナンス基本技：亀裂部分を治しましょう。

凹んだり折れたりが無い反面、裂けるというのがシリコンの特徴。プラスチックなら瞬間接着剤というのでも効きますが、シリコンの場合はどうなのでしょう。もちろんシリコンにも有効とされている二液性瞬間接着剤などはプライマー処理後、付加型シリコンを接着できます。ただし接着剤自体が固くなってしまふため、その部分だけ固くなってしまいます。たとえばひと昔前の縮合型シリコンであれば(一般

的に縮合型は型取用が多い)一度硬化したものの上に後から同じシリコンが食い付きませんが、最近のドールに使用されている付加型シリコンの場合は一度硬化したものの上に、後から付け足してもほぼ接合しません。

ドールに使用されているシリコン、またはメーカーによってその接合方法は違いますが、概ねプライマーとシリコン、あるいはシーラントによってある程度は接合が可能です。下図の

アルテキオ製ドールにはリペアキットとしてドールと同じ素材のシリコンが用意されています。しかし接合力は信越シリコンの脱酢酸タイプの一液性シリコンシーラントが強いようです。このシーラントは同社ウェブサイトからも入手が可能です。そしてそれと親和性の高いプライマーも用意されています。このような素材に関する情報は素材メーカーや大型量販店などでも詳しい店員から聞くことができます。



傷口を有機溶剤のアセトンなどでよく洗浄しましょう。その後、プライマーを薄く塗り、夏期は30分、冬期は1時間ほど放置します。(メーカーによって異なりますので間い合わせて下さい。)大量の塗布は逆効果になるので要注意です。乾燥が済んだらシーラントを適量、適当なパレットに出します。



シーラントと混ぜるためのシリコントナーを少量とり、専用トナーはかなりの少量でも色付きが期待できます。トナーが無い場合はアクリル絵の具などを代用することができますが、あまり効果的ではありません。いづれにしても、あらかじめドールのボディカラーと同色に調合しておきます。



次にそのシーラントに素早くシリコントナーを混ぜます。攪拌ムラがあると硬化後に混ざり切らなかったトナーが衣装等に付いてしまい、なかなか落ちないので注意が必要です。シーラントのポッドライフは季節や温度によって変わりますが、だいたい5分くらいと考えて計画的に作業を進めましょう。



接合面に着色したシーラントを薄く塗り付けます。傷口を合わせた時にはみ出した余分なシーラントはヘラで拭き取り、ノルマルヘキササン等を筆やティッシュなどに含ませて軽く馴染ませるのもよいでしょう。汚く仕上げても硬化後ではヤスリが効きませんので、キレになるようにします。



ポッドライフ(作業時間)は短く、完全硬化には時間がかかります。それまで指で押さえているものなので写真のようにホッチキスの針で固定するか、セロハンテープなどで包帯しておきましょう。実は手でずっと押さえていた方が傷口はキレイになります。相当根気が必要になります。

裂いちゃったあゝ!!
なんて慌てないで
冷静に対応するのが
二次被害を防ぐ
秘訣なんだぜ。



ふっつう慌てるよ。
っーか痛そう...

その他の基本技：ドールアイの操作と入れ替え



シリコン・シームレスドールはシリコンの押さえる力でドールアイを固定しているだけなので、基本的に外からの視線移動が可能です。一見して痛そうな顔ですが、何か尖ったもので、なるべく目立たない部分を押さえて動かすことができます。タックでドールアイが動きにくくなっている場合がありますので、いちど上下のマブタを広げて眼架の中に空気を入れてみると、ドールアイがタックの粘着力から解放されるので動かしやすくなります。



またドールアイを外したり取り付けたりする場合もタックで固定されている眼架の隙間に一度空気を入れる要領で上下に「あっかんべー」をして、ドールアイをフリーの状態にしましょう。その後から上下のマブタを少しずつ交互にドールアイの奥の方に溜り込ませて行きます。すると自然とドールアイは露出していきます。目頭や目尻の裂けに気をつけながら行いますが、あまりおっかなびっくりり過ぎて、時間をかけてしまうのも、あまり良い事ではありません。

なんか今日は
痛そうなお話
が多いわね...



その他の基本技：ウィッグの取り付け・取り替え



シームレスは
すべりが悪いから
裏返すのがミソ。



ウレタンキャスト製のヘッドと違いシリコン・ヘッドは粘着シートを使わなくても滑り落ちないというメリットはあるものの、ゴムの表面にウィッグのベース部分が食い付いてしまえばウィッグを動かすのは非常に困難です。まずウィッグを裏返しにして後、最終位置をあらかじめ想定しながら、えりあし部分を指で押さえておきます。



そして前髪の生え際の部分を持ち、裏返したウィッグを頭に沿うように戻しながら装着します。前にずっこけたようになってしまったら、えりあしの部分を持って後方に引っ張るようにすれば、おでこが出過ぎているようでしたら前髪の生え際を前方にずらします。前後左右大幅にずれているようなら、イチからやり直るのが早いでしょう。

ウレタンキャスト製、PVC製のドールは慣れているけれども、あまりシリコン・シームレスドールに接した事の無い方でしたら、いろいろと戸惑うことが多いと思われます。実際に質問が多い「汚れやすいのか」「汚れたらどうするのか」「裂けの修理は可能か」といったものを中心に紹介いたしました。また色移りの質問もよく聞きますが、シリコンに関してはあまりありません。一部のポリウレタン系の色の濃い化粧で報告を聞きましたが、私が試したところでは起きませんでした。ただそれは全く起こらないということではなく、起きにくいというだけの話であり、実際に下着の形で色移りした画像等も添付いただいたわけですから、現段階ではデータが揃っておらず特定はできないしお答えできないのが現状です。

今回はほぼシリコンを材質としたシームレスドールをメインに話を進めてきましたが、先にも述べたようにシームレスドールにもいろいろありますし、性質もそれぞれ違います。しかし概ねある程度のタックとブリードがあると

いう点では共通点がありますので、なんとなくこんな運用方法でいいのかな...とバックリ理解してくだされれば良いかなと思います。もちろんシリコン・シームレスドールをお持ちの方であればそのままストレートにお読み頂いて結構でございます。

さて今後シームレスドールが一般化して行くという予測に関しては、技術的にみても運用の困難さからみても非常に厳しい感じですが、確かに現在では各シームレスドール・メーカーが新作を発表しつづけているだけの勢いはありますが、ある程度のニッチ市場で飽和状態になれば廃れていくものなのか、それとも進化を繰り返すマスタック製品となっていくのか、今のところはなんとも言えません。ポイントはどの素材に関してもいえる事なのですが、まだまだ素材メーカーがドール用に改良を重ねるほどの市場規模ではないということです。もっとも本誌をお読み頂いている読者様の多くはシームレスのオーナー様と思われるので、今回のお話が少しでもお役に立てれば幸いです。

もうパツチリだ!
今日からオレが
治してやるよ。



よ...寄らば
斬るっ!

